

## 本時のねらい

- ・主題図や統計資料、写真資料を適切に読み取り、東南アジアが発展した理由を説明できる。
- ・各種資料の読み取りや、仲間の説明をもとに、東南アジアが発展した理由を複数の視点から捉えることができる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・Teamsに予習動画をアップロードし、生徒が事前に基本事項を確認することで、活動を授業の中心に据えることが可能になる。
- ・Formsを活用し、事前確認課題に取り組みさせることで、生徒自身が学習のポイントとなる箇所を予習の段階で捉えることができる。
- ・OneNoteの共同作業スペースを活用し、調べる活動の効率化をはかる。また、画像を入れた資料の使用により説明の質を高めることができる。
- ・Teamsの課題機能を使用し、OneNoteの本時のページを提出させることで、教員・生徒双方が提出状況を把握できる。また、フィードバック機能の使用により、より細かな指導が可能になる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ Teams
- ・ Forms
- ・ OneNote
- ・ 電子黒板
- ・ NHK for School

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東南アジアが経済発展を遂げたことの確認。</li> <li>・東南アジア各都市の画像をもとに近代化・発展していることを確認する。</li> <li>○学習課題の確認と予想</li> <li>・「東南アジアは外国との関わりの中でどのように発展したのだろう」を確認し、自分なりの考えを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業までに各自で予習動画を視聴し、事前確認と課題に取り組む</li> <li>・Teamsの課題機能を活用して、事前に予習動画をアップロードする。(必要に応じて繰り返し視聴できる。)</li> <li>・Formsを活用した確認課題に取り組みさせることで、生徒自身が学習のポイントとなる箇所を捉えることができる。</li> </ul>
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東南アジアが外国との関わりの中でどのように発展したか考察する。</li> <li>・ジグソー学習により、3つの視点から東南アジアがどのように発展したかに迫る。</li> <li>・各担当グループで考察し、資料を入れて整理する。 (エキスパート活動)</li> <li>・各担当で作成した説明ページをもとに、各班で伝え合う活動をする。(ジグソー活動)</li> <li>・班ごとに課題について考察し、整理する。(ジグソー活動)</li> <li>・各班の考察をもとに全体で話し合う。(クロストーク)</li> </ul>	<p>【OneNoteを利用することによる利点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート活動時、OneNoteで共同作業をすることにより、その後のジグソー活動に移る時に起こりうる個々の説明のずれが最小限に抑えられる。</li> <li>・説明資料を画像付きで作成できるので、説明の質を高めることができる。</li> <li>・他グループの考察をいつでも見ることができる。</li> <li>・iPadの画面ミラーリング機能を用いて、全体で一つの班の考察を見ることができ、タブレットで複数の班の考察を比較することもできる。</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東南アジアが外国との関わりの中でどのように発展したか整理する。</li> <li>・班での考察や全体での話し合いを踏まえ、本時のまとめをOneNoteに打ち込み提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Teamsの課題提出機能を用いて本時のOneNoteのページを提出させることで、ノートやプリントの提出や回収が省ける。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子



(写真1)学習課題を確認し、自分なりの考えを持つ。



(写真2)各担当で作成した説明ページをもとに、各班で伝え合う活動をする。(ジグソー活動)



(写真3)班での考察や全体での話し合いを踏まえ、本時のまとめをOneNoteに打ち込み提出する。

## 児童生徒の反応や変容

- ・OneNoteを使用することで、同時編集が可能になるとともに、手元に協力して各担当が見つけた資料が残り、学習の助けになった。
- ・スローラーナーであっても、仲間とともに作った資料を活用することで学びに繋がった。
- ・OneNoteで画像を入れた自由度の高い資料作成ができ、生徒は意欲的に活動していた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・使用するアプリをMicrosoftでそろえることにより、各機能を連携させ、予習—授業—まとめの提出までスムーズに行うことができる。一人一台のタブレットにとどまらず、タッチペンを導入することで、よりスムーズな授業展開が可能となる。